

初任者研修

地区別で行う研修

リフレクション通信

兵庫県立教育研修所

地区別で行う研修は、小学校、中学校、義務教育学校、市立特別支援学校の教諭、栄養教諭、養護教諭を対象に実施しました。講義・実習「教育相談①（カウンセリングマインド等）」では、生徒指導における教育相談の意義やカウンセリングマインドに基づいた生徒指導の基本的な技法について研修しました。また、講義・演習「生徒指導（いじめ、問題行動への対応）」では、事例を基にいじめ等の問題行動への基本的な対応の在り方について考えました。校種、職種を越えて、児童生徒理解に基づいた生徒指導の重要性について考え、それぞれの立場でどのように子ども達の成長、発達を促したり支えたりすることができるかということ进行交流することができました。

小・中学校、市立特別支援学校、栄養教諭、養護教諭共通

【教育相談①(カウンセリングマインド等)】

<小・中学校>

○研修に向けて

- 自分が思っていることや困っていることが、言えない子どももいます。そういった子どもに対して、どんな質問、問いかけ方をすれば、その子が自分の言葉で話すことができるのか知りたいです。
- 子ども達の不安の背景の把握に努めていますが、どのような聞き方をすれば子ども達にとって話しやすいか、また日頃からどのような言葉をかけることで子ども達にとって話しやすいと思える教員になれるのか知りたいです。

○研修の振り返り

- 振り返って見ると、子どもの話を聞くときに、立ったまま聞くことがありました。子ども達の話はしっかり聞いているつもりでしたが、気付かないうちに子ども達に圧迫感を与えてしまっていたかもしれないので、これから気を付けていきたいです。
- 教育相談は、すべての子ども達を対象にいつでも、どこでも、誰でもできるもので、受容と共感が大切であるということが分かりました。全教職員で教育相談をすることで、問題に対しての早期発見や早期対応につながると思います。
- 今日、実際に受容と共感を体感してみて、受容や共感をしてもらえると話しやすかったし、もっと話を聞いてもらいたい、もっと話しかけたいと思えました。私も普段つい忙しかったり、余裕がなかったりすると適当な返し方をしてしまうことがあるので、もっと先生が聞いてくれているなと思えるような返し方をできるように、傾聴の5技法を使っていきたいと思えました。

<市立特別支援学校>

○研修に向けて

- 様々な事例に対して、どのようなアプローチがあるのかをよりたくさん吸収したいと思います。また、教育相談の際にどのようなことを意識すれば良いのかという点について学びたいです。
- 生徒指導という形で教育相談をしたことがないのですが、どのようなことに気を付けるべきなのか、言葉のかけ方で気を付けることがあるのかを学びたいと思っています。

○研修の振り返り

- 相手の話を「聞く」ことの重要性を改めて実感したとともに、普段子ども達に対する接し方をより改善していけると感じました。特に、上から見下ろす話し方というのは子ども達からすると、圧迫感やプレッシャーを与えることに繋がってしまうので、もっと目線の位置を常に子ども達に合わせるようにしたいと感じました。
- 「共感」と「同情」の違いについて、新たな視点を得ることができました。また、常に言葉の使い方に気を付けないといけないと感じ、傾聴の 5 技法を意識した会話を心掛けたいと思いました。特別支援学校に勤務しているので、自分の好きなことを話したい子ども達には、あいづちを効果的に使って話しやすい環境を整えることが必要だと感じました。また、非言語コミュニケーションをとる子ども達も多いため、それを明確化してあげることも大切だと思いました。

<栄養教諭・養護教諭>

○研修に向けて

- 普段、保健室で子ども達と話をする中で、どのような態度で聞くことが大切なのか、今の自分はそれができているのかというところを学びたいと考えています。また、いじめや虐待など、複雑な問題を抱える子ども達にどのようなアプローチをしていけばいいのかということも学びたいです。
- 栄養教諭はいつも子ども達と一緒にいれるわけではないですが、だからこそ、子ども達が悩みや不安等を話しやすい立場になるために、できる限り世間話をしたり、楽しい雰囲気での授業ができたりするように心がけていきたいですし、そのヒントを得たいです。

○研修の振り返り

- 今日の講義を通して、伝え方の難しさを感じました。教員は子ども達にうまく伝わっていると思っていても、実はそれがうまく伝わっていないこともあるなど、普段の自分の伝え方を振り返ることができました。
- カウンセリングマインドにおいて、共感することと同感することの違いを学ぶことができました。今の自分は子どもの話に同感してしまっている部分があり、子どもの話を聞いて、一緒に落ち込んでいます。同感するのではなく、共感して子ども達の心に寄り添いたいと感じました。非言語的コミュニケーションも、すぐに実践できる内容ばかりでたいへん勉強になりました。



「傾聴の 5 技法」に取り組む受講者。体験を通して、うまずきやあいづちといった受容が話しやすさを生むことについて理解できました。

小・中学校、市立特別支援学校、栄養教諭、養護教諭共通

〔生徒指導(いじめ、問題行動への対応)〕

<小・中学校>

○研修に向けて

- ・自分が担任をしているクラスでもいじめ事案が起こったこともあり、教職員間で情報共有をしたり、保護者に対する連絡を行ったりしましたが、適切に対応できたか自信がなかったので、対応法を詳しく学びたいと思います。
- ・子ども達の間でトラブルがあったときに、どのような手順で対応を進めていく必要があるのかを学びたいです。また、いじめや問題行動があったときに保護者に対してどのように伝えるのかや学校としてどのように対応していくのかを学びたいです。

○研修の振り返り

- ・生徒指導を行う上で大切なのは、児童生徒のことを多角的・多面的に理解することであると学びました。日常生活の中で観察したり、面談を行ったり、他の教職員から情報を聞いたりすることで、児童生徒を理解することができると分かりました。
- ・いじめ対応について、まずは組織的に対応し、迅速な指導を行うことが大切であると感じました。少しでも気になることがあれば見逃さず声かけを行い、教職員がアンテナを高く張っておくことが、未然防止に繋がると分かったので、今後に生かしていきたいです。



校種、職種を越えた班編制で演習を行い、情報交換や協議を行いました。

<市立特別支援学校>

○研修に向けて

- ・生徒指導を漠然と行ってしまいうこともあるので、どうしてそのような指導が必要なのかを考えていきたいです。また、子ども達にどうなってほしいからその指導をするのかを意識したり、自分の中でまだ確立しきっていないことをより深く学んだりしたいです。
- ・実際にいじめ事案を見抜くための方法や起きた時の対処方法、子ども達へのアセスメントの方法や関わり方について知りたいです。特別支援学校に勤務しており生徒指導という観点での問題行動への対応はしたことがなく、実際に起きた時の言葉かけや対応に不安があるので、今回の研修で学びたいです。

○研修の振り返り

- ・生徒指導は「自分らしく生きる」ことができるようにするための働きかけということで、自分の担当している子ども達にも必要だと強く感じました。問題が起こったから指導をするというのではなく、社会で生きていくための力を付ける、成長を促すことが何より大切だと分かりました。
- ・行動の裏に環境要因などがあるということを意識して子ども達に目を向けていきたいなと感じた。いじめの事例検討では教職員で情報を共有しておくことが、とても大切だと感じたし、子ども達のことについて情報共有する時間を放課後などに設けるようにしようと思いました。

< 栄養教諭・養護教諭 >

○研修に向けて

- ・悪気がなく友だちとの距離が近すぎる子どもがいます。その子どもにとっては仲良くしているつもりでも、相手からすると不快に感じることもあったり、軽いつもりのスキンシップが叩かれたと感じたということがありました。こういった子ども達への指導や声かけに悩んでいます。
- ・普段給食センターで勤務しており所属校に通う頻度が少ないため、他の先生方よりも子ども達の性格や環境の把握は難しいと感じています。したがって、職員会議で学校に行った時など、先生方が情報共有されているのをしっかり聞いて、チームの一員として、よりよい子ども達との関わり方を考えたいと思っています。

○研修の振り返り

- ・小さなサインを見逃さないために、保健室来室状況、子ども達の行動観察、交友関係、登下校の様子、アンケート、教育相談、健康相談を活用したいと思います。また、そこで得た情報は学校内で共有することを大切にしていきたいと思います。
- ・演習の最後に指導主事の方が話されたように、早期発見、早期対応、子どもの小さなサインを見逃さないために、栄養教諭として全体からだからこそ見える視点を大切にしたいと思いました。そして担任の先生方にきちんと伝え、全教職員で生徒指導を行います。教職員自身の心の余裕、安定が大事と言われたことがすごく響いたので、早く仕事に慣れて、余裕をもって子ども達の行動を見守ったり、励ましたりできるようにになりたいです。



講義・演習「教育相談①(カウンセリングマインド等)」では、カウンセリングマインドについて、指導主事の実演を参観したり、受講者自身が体験したりしながら、理解を深めました。

受講者の振り返りの記述にもあったように、子ども達の話聞く、受容する重要性が確認できました。今後、子ども達との関わりの中で、本研修の学びを生かしてほしいと思います。



講義・演習「生徒指導(いじめ、問題行動への対応)」では、事例を基に想定される対応を個人で考えました。その後、各班でホワイトボードに出し合い、整理することを通して、対応の手順や「報告・連絡・相談」の重要性を改めて実感することができました。

協議の中で、「研修では、時間を使って考えることができるが、実際の現場では、スピード感をもって判断することが求められると思うので、この研修での学びを生かしていきたい」という意見が出ていました。